

2010年3月期(2009年度)第1四半期決算説明会における質疑応答

- : 質問

→: NECの回答

質問者 A

- 自動車向けリチウムイオン電池事業に対する考え方、その戦略について教えてください。その設備投資計画も教えてください。
 - 既に発表しているとおり、日産自動車の電気自動車65,000台分の計画に対しては、NECが責任をもって電極を供給していきます。その設備投資は100億円を超える金額ですが、手当て済みです。
- NECエレクトロニクスとルネサス テクノロジーの統合基本契約締結の発表が延期されましたが、現在のNECの考え方に変化はありますか。
 - 当初7月末を目処に統合基本契約の締結を目指していましたが、延期する旨を7月28日にお知らせしました。半導体事業は固定費負担の重い事業であり、その資産価値は厳しく精査する必要がありますが、想定以上に時間がかかっています。統合についての考え方は基本的に変わっていません。

質問者 B

- 第1四半期実績は会社想定に対してどの程度上振れたのですか。固定費削減についてはどうでしたか。
 - 売上高で500億円、営業損益で200億円程度、想定に対して上振れました。営業損益の上振れは、ITサービス事業とパーソナルソリューション事業（主に携帯電話機）でしたが、携帯電話機は第2四半期からの前倒しであり、上期の出荷計画については期初予想から変更はありません。
 - 固定費削減は第1四半期時点で年間計画に対して27%の進捗でした。想定に対しては、100億円～100数十億円上振れた感触です。
- IT投資に関する国内顧客の動向、およびLTE(*1)に関する来年度以降の見方を教えてください。
 - 国内のIT投資環境は、官庁、公共、医療、流通などは比較的底堅いものの、景気悪化の影響がないとは言えない状況です。一方で、製造やメディア向けは景気悪化の影響を顕著に受けている印象です。

- LTEについては、キャリアの意向次第ですが、2010年度後半のサービス開始を想定すると、本格的に当社の事業として動き出すのは2011年度からになると考えています。
- 「NECグループビジョン2017」の内容を教えてください。
 - 約30年前に「C&C(*2)」という企業理念(*3)を作りましたが、これを基に、この10年間でどう変革させるか、10年後はどのような社会で、そこで我々が何を指すのか、社員のベクトルを合わせようとしています。それをベースに中期的な計画にも繋げていきたいと考えています。
- 第1四半期の営業損益について、ITサービス事業が想定に対して上振れたのは、固定費削減がより進んだということですか。
 - 売上高の上振れは100億円には届かないレベルでしたが、営業損益ではSI革新や固定費削減が寄与しました。
- ITサービス事業の営業利益は、通期で上振れしそうですが、全社の営業利益の業績予想は変更しないのでしょうか。
 - 他の事業の状況も考慮し、全社の通期営業利益予想1,000億円は変更していません。

質問者 C

- エレクトロニクス事業は、通期の営業損益でブレークイーブンを達成できるのでしょうか。全社の上期および通期の営業利益予想を変えていないのは、この事業でリスクを見ているということでしょうか。
 - エレクトロニクス事業に含まれている、NECエレクトロニクスは上場会社であり、同社の予想を全社の予想に反映させています。リスク感は色々ありますが、それをヘッジしているということはありません。
- 第2四半期のPC、携帯電話機の出荷台数計画を教えてください。
 - PCは、上期で110万台を計画しており、第2四半期は60万台の計画となります。携帯電話機は、上期230万台を計画しており、第2四半期は100万台の計画となります。

質問者 D

- ネットワークシステム事業について、特に北米の光通信やパソリンクの状況

を教えてください。

→ 北米の光通信の事業環境が悪化しており、売上高も減少する見込みです。パソリンクは足元の景気後退から現在の需要は低迷しており、為替を含めて第1四半期の売上高は前年同期に対して2割程度減少しています。但し、市場そのものは新興国を中心に活発で、今年度後半からは従来レベルに戻ると見えています。今年度のパソリンクの通期出荷台数は、前年度並を確保できる計画です。

- モバイルターミナルの第1四半期の営業利益はどのくらいでしたか。

→ パーソナルソリューション事業の営業利益の大半は「モバイルターミナル」で、「PCその他」はほぼトントンでした。

- ITサービス事業の今後の業種別動向を教えてください。

→ 官庁、公共、医療、流通が上振れ基調なのに対し、製造、メディアは悪化傾向と見えています。ITサービス事業は上期で若干上振れ感がありますが、下期の状況が見えないこともあり、年間計画は期初予想通りと考えています。

質問者 E

- 第1四半期の期初予想に対する上振れ金額、売上高500億円、営業利益200億円の内訳を教えてください。

→ 売上高はパーソナルソリューション事業、ITサービス事業を中心に全てのセグメントで上振れました。営業損益は、ITサービス事業、パーソナルソリューションを中心に上振れました。なお、ITサービス事業の売上高と営業利益はそれぞれ100億円に近い上振れとなりました。

- 第1四半期のフリー・キャッシュ・フローがマイナスとなったのは何故ですか。

→ 第1四半期は475億円の支出でしたが、昨年度の構造改革関連に伴い、収支上は今年度に影響が出ているものなどがあることが理由の一つです。

→ なお、第1四半期は想定比で改善しており、通期でも現時点の予想から改善する見込みです。

質問者 F

- 第1四半期の為替のインパクト、想定差、為替予約の状況について教えてください。

- 従来どおり、ドルが1円円高になると損益で年間△8億円のインパクトが出ると想定しており、第1四半期ではその1/4のインパクトになります。第1四半期の予想レートは90円であり、第1四半期売上平均レートが約98円と円安に動いたので、プラスのインパクトとなりました。ユーロも同様に損益で年間△4億円のインパクトと想定しています。
- レートの動向に関わらず、為替予約は外貨建取引の50%をヘッジしています。
- 第1四半期における持分法投資損益の前年同期に対する悪化理由を教えてください。
 - 日本電気硝子の影響が大きいです。
- 9月末に向けて棚卸資産の圧縮を計画していますか。
 - 6月末の棚卸資産残高は約4,100億円でしたが、9月末には3,000億円台、今期末には3,000億円にする活動を行っています。
- 自動車向けリチウムイオン電池事業の今後の設備投資計画に対する考え方を教えてください。
 - まずは足元の計画に沿った対応が重要と考えており、その後については別途検討していきます。

*1 LTE: Long Term Evolution、3.9G、もしくはスーパー3Gとも呼ばれる3G(第三代移動通信システム)の高速化規格

*2 C&C: Computers and Communications

*3 企業理念:「NECはC&Cをとおして、世界の人々が相互に理解を深め、人間性を十分に発揮する豊かな社会の実現に貢献します。」(1990年制定)

以 上